

認知症の予防法について
講演する亀田北病院の宮
沢仁朗院長



人とのつながり 「認知症を防ぐ」

函館の医師講演

【北斗】市と渡島医師会
は20日、認知症をテーマにした講演会を市総合文化センター(中野通2)で開いた。講師の亀田北病院(函館市石川町)の宮沢仁朗院長が、「人とのつながりが認知症の予防につながる」と訴えた。

宮沢氏は、「物忘れは加齢により起こる。認知症はアミロイドβタンパクの蓄積により脳が萎縮し起きる記憶障害」と説明。認知症の症状として、道に迷いやすくなるなどの事例を挙げた。本人は畑に行ったと言うが、実際にはデイサービスに行ったなど会話と行動の齟齬(そご)から判明することもあるという。

宮沢氏は予防法について、仲間と行えるスポーツや娯楽を推奨。「いくつになっても友達のを広げ新しいことに興味を持って」と呼びかけた。

(星葉莉枝)